

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 041	提案機関名 県央家畜保健衛生所
要望問題名 豚凍結精液の実用化について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 養豚経営において産子を得るためには、自然交配あるいは新鮮精液を希釈した液状精液による人工授精が行われているが、雄豚の飼育に伴う生産コストや液状精液の品質低下など、改善すべき課題を抱えている。 そのため、凍結精液を用いることで、諸問題を改善することが可能であるが、現在の凍結技術では繁殖成績が低いと見られ、実用化には至っていない。 そこで、今後現場で利用可能な凍結精液による人工授精法の開発をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター      ③水産技術センター      ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施   ②実施中   ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) 豚精液の凍結保存に関する試験(1995、神畜試研報No.85)			
対応の内容等 凍結精液の利用は「豚凍結精液利用マニュアル」*1があり、当所でも過去にこの方法に基づいて精液の凍結保存技術に取り組んだほか、広島大学*2の論文では精液の凍結条件、融解条件、新規希釈液の開発等を軸にした成果などが報告されており、一定の成果が得られているところですので御紹介させていただきます。 凍結精液技術に関しては繁殖成績の向上や実用化に向けた希釈液や冷却プログラムの検討についてなど他の試験研究機関で研究がされ液状精液と同等の受胎率が確認されています*3。			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考 ※1 丹羽太左右衛門、日本家畜人工授精師協会発行：豚凍結精液利用技術マニュアル，1989。 ※2 岡崎哲司：ブタ精子及び精漿の機能解析、それを基とした凍結精液による人工授精法の開発に関する研究，2010。 ※3 岡山県総合畜産センター：豚凍結精液の実用化技術の確立，岡山県総合畜産センター研究報告9～13号			